

明治大学大学院経営学研究科

(経営労務プログラム) 募集のご案内(予告)

平成20年度より、明治大学大学院経営学研究科に経営労務プログラムが開設され、連合会より、同プログラムに社会保険労務士を推薦することとしております。

同プログラムへの推薦により、これまでに84名の社労士が明治大学大学院に入学し、修了した方にはMBA(経営学修士)が授与されています。

つきましては、平成29年度入試におきましても募集を行う予定ですので、確定している募集要項についてご案内いたします。

募集要項 (要約)

1. 応募要件

以下の3つの要件すべてを満たす場合、応募することができます。

- (1) 社会保険労務士として登録して3年を経過していること。
- (2) 3年以上の実務経験(※1)を有する者、またはそれと同等以上の経験(※2)を有する者であること。

(※1)「実務経験」とは、次のいずれかをいう。

- ① 開業社会保険労務士または社会保険労務士法人の社員として、顧問先事業所における人事労務管理の実務を行っているか、または行っていたことがあること。
- ② 社会保険労務士事務所または社会保険労務士法人の勤務社会保険労務士として顧問先事業所における人事労務管理の実務を担当しているか、または担当したことがあること。
- ③ 勤務社会保険労務士として、勤務先企業の人事労務管理の実務を担当しているか、または担当したことがあること。

(※2)「それと同等以上の経験」とは、所属の都道府県社会保険労務士会会長に自己の業務内容等を記載した職務経歴書を提出し、(※1)と同等以上と認められた場合をいう。

- (3) 明治大学大学院に入学する時点で、22歳以上であること。

2. 募集期間

平成28年7月下旬～9月末予定(6月中旬に連合会ホームページの会員専用ページ及び月刊社労士7月号でご案内予定)

3. 提出書類

(1) 職務経歴書

- ① 所定の様式を使用してください。
- ② 所定の様式は、連合会ホームページの会員専用ページ「お知らせ」(6月中旬予定)よりダウンロードできます。
なお、A4版でプリントアウトし、提出してください。

(2) 課題レポート

テーマ 6月中旬に連合会ホームページの会員専用ページ及び月刊社労士7月号でご案内予定

- ①文字数 : 3,000字程度(2,700字～3,300字)
※句読点は文字数にカウントしてください。
※参考文献は必ず明記してください。なお、文末に参考文献を列記する場合、文字数のカウント外としてください(文末に文字数を明記してください)。
- ②提出形式: パソコンで作成し、A4版横書でプリントアウトし、提出してください。
- ③その他 : レポートは、1行目に所属会及び氏名、2行目に選択したテーマ、その後1行あけて、4行目から本文を書き始めてください。

課題レポートの評価基準

1. 与えられたテーマを論じるために、必要な学習をしていると認められるか。
(必要な資料、論文等に依拠しているか。(文献引用の有無は問わない))
2. 与えられたテーマに関して、ある程度説得的な論理展開を進めて検討を行っているか。
3. 誤字脱字の有無、文章表現の巧拙等、レポートとしての形式がきちんと整っているか。

4. 書類提出先

所属の都道府県社会保険労務士会

5. 提出方法

- (1) 所属の都道府県社会保険労務士会に持参
各都道府県社会保険労務士会の業務時間内に持参してください。
 - (2) 所属の都道府県社会保険労務士会に郵送
特定記録郵便もしくは簡易書留扱いで郵送してください。
- ※提出書類に不備があった場合は受け付けられません。

6. 連合会における推薦者の決定

- (1) 都道府県社会保険労務士会会長の推薦に基づき、連合会に設置された推薦委員会において、提出された課題レポートを審査のうえ決定されます。
- (2) 推薦に関する結果は、連合会から直接応募者に通知します。
- (3) 推薦者の決定に関する照会には応じられませんので、あらかじめご了承ください。

※連合会において推薦が決定した場合、別途、明治大学大学院に出願していただくこととなりますが、出願期間や合格者の決定についての情報は、6月中旬に連合会ホームページの会員専用ページ及び月刊社労士7月号でご案内予定です。

入試説明会のご案内

連合会並びに明治大学大学院経営学研究科では、下記の日程で入試説明会を開催いたします。

①連合会主催

日時：7月11日（月）18：30～20：00
会場：全国社会保険労務士会連合会 社労士会館6F 第1会議室
東京都中央区日本橋本石町3-2-12

- 修了生が、大学院での研究生生活、また終了後の社労士業務への影響などについてお話しし、参加者からの質問にお答えします。

※明治大学大学院への出願後の手順等につきましては、②7月26日の明治大学大学院主催の入試説明会でご説明がありますので、併せてご出席いただきますようお願いいたします。

②明治大学大学院主催

日時：7月26日（火）18：30～20：00
会場：明治大学グローバルフロント3F 4031教室
東京都千代田区神田駿河台1-1

- 連合会より、経営労務プログラムに現役社会保険労務士を推薦する目的を説明いたします。

- 人事労務系の教員が大学院とはどういうところか、社会保険労務士に何を期待しているかを語ります。
- 教育補助講師が、社会保険労務士院生の学習、文献の検索、修士論文の作成等をサポートする体制を説明し、社会保険労務士院生の研究を指導した経験について語ります。
- 経営労務プログラム修了生が、研究指導を受けたときの思い出、修士論文を書いたときの感想等を語ります。
- 明治大学大学院事務室職員が、経営学研究科の入試制度、入試全体の事務手続き、入学後の経営労務プログラムの履修方法を説明いたします。
- 入試説明会に参加ご希望の方は、連合会ホームページより参加申込書をダウンロードいただき、FAXにてお申し込みください（連合会ホームページ→会員専用ページ→お知らせ 明治大学大学院経営学研究科（経営労務プログラム）入試説明会のご案内）。

お問い合わせ先 全国社会保険労務士会連合会 社会保険労務士総合研究機構 TEL 03-6225-5013

社労士院生の研究活動に対するサポート体制

—教育補助講師による研究支援体制—

【昨年度入試説明会における明治大学大学院経営学研究科資料より抜粋】

経営学研究科に入学した現役社労士は、2年間の研究活動を通じて修士論文または課題研究レポートをまとめて提出しなければなりません。実務志向の考え方を学術研究志向に転換させるのは、誰でも大変に辛いことです。経営労務プログラムは、修士論文を作成する過程において現役社労士が直面する困難を想定し社労士の研究活動をサポートするための教育補助講師体制を整えています。

1. 授業補助
2. 教材作成
3. 授業のフォローアップ

担当教員の指示に従って、授業のフォローアップを行います。このフォローアップとは、やむをえない事情で授業を欠席した院生に対し、教材を配布したり、授業の概要と要点について解説したり、また、必要な場合には、必読すべき文献を紹介いたします。

4. 学習への支援・指導

担当教員の指示に従って、院生個人の自学・自習に対する支援と指導を行います。この場合の“支援”とは、書誌の利用法、文献検索法、図書館活用法、研究に必要な文献収集、情報収集に関わるものを指しています。また、この場合の“指導”とは、修士論文執筆に必要な「執筆要領」に関わる助言、場合によっては、修士論文作成上の注意などを指しています。

科目等履修生制度のご案内

明治大学では、生涯学習の推進を図ることを目的として、「科目等履修生制度」を設けています。本制度は、社会人等に対して学習機会を拡大する観点から設けられた制度で、開設されている授業科目のうち所定の科目を履修して、一定の単位を修得することが可能です。

また、本制度で修得した単位は、申請により大学院卒業に必要な単位として認定されるため、前述の大学院推薦制度に応募する前に、本制度を利用して授業の雰囲気等を体感し、不安を払拭した上で、チャレンジされる会員の方もいらっしゃいます。なお、詳細につきましては、下記宛てにお問い合わせいただきますようお願いいたします。

〈問合せ先〉

明治大学大学院経営学研究科

東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL: 03-3296-4075

大学院における 研究成果と 社労士業務

大阪会 井上 仁志
(大阪産業大学経営学部経営学科 准教授)



『50歳を過ぎたら日本の将来を担う学生を社会に送り出す仕事に従事したい!』この思いで明治大学大学院経営学研究科経営労務プログラムに行く決心をしました。

経営労務プログラムは、私が従事していた人事系の業務に直結した科目が多く、人的資源管理を深く勉強、研究し、学術的な素養を身につけるには好都合な内容となっていました。また、会社から30分で往復できる距離だったことから、17時20分の終業時刻に業務を一時中断して大学に行き、授業終了後、会社に21時40分ころには戻れるために、マネージャーという役職でも通学できる。土日と年次有給休暇を上手く使えば修士論文も書けると考えました。

修士論文は『パートタイマーの多様化に対応した雇用管理のあり方』とし、雇用形態が非正規に傾斜しつつある中で、最適な人材ポートフォリオの視点から研究をしました。この2年間は、研究活動で充実した毎日を過ごしていました。

大学院終了後、大学の教員になるべく多くの大学に応募をしましたが、書類審査で不合格になることも多々ありました。現在、大学教員の採用では基本的に博士号を取得していることが前提となっているために、学歴で言えば修士で採用してもらえ可能性は極めて低くなります。ただし、実務経験が豊富で、それが担当する授業科目と適合している場合には修士でも採用してもらえ可能性があります。

私の場合も企業での人事業務、社労士の経験から「人的資源管理論」、研修機関長やダイバーシティ推進マネージャーの経験から「キャリアデザイン論」の教科に適合していたことと修士の学位を取得して

いたことから教員として採用されました。採用が決まったときには、2年間通った大学院での成果を活かせる場ができたことに感無量でした。

教員になって最初の1年間は、自転車操業のごとく毎週6コマの授業準備に追われていて論文を書く時間的な余裕がありませんでしたが、2年目に入り、「人的資源管理」・「キャリアデザイン」に関する論文3編、研究ノート1編、書評2編、著書1点、共著1点、学会発表1回と順調に研究を進めています。この基礎を築くことができたのは、まさに大学院での学びの成果だと考えています。

実務家である社労士が専門的な分野を研究する場合には、経営学、しかも経営労務に特化したプログラムは最適だと思います。企業は、経済・社会情勢、顧客動向、競争企業の状況を見極めた事業運営が必要であることから、学術としての経営学も実務と密接不可分の関係にあります。経営学の分野は、実務家だからこそできる研究領域があると考えています。

社労士としての知識、経験に経営学の学術的な素養を備えることにより、将来研究者として活躍できる可能性もあります。2016年4月から、私の1年下で明治大学大学院経営学研究科経営労務プログラムに入学し、修了した渡邊容子さんが、大阪産業大学経営学部の非常勤講師として週4コマの授業を担当しています。渡邊さんも大学院での研究成果と実務経験が評価されて採用されました。

私は、2016年4月からキャリアセンター長も兼任し、全学の就職支援業務に従事しています。人生を終えるときに、私が育てた学生、就職の支援をした学生が日本の社会のために貢献している姿を見て、素晴らしい人生だったと言えるようになりたいと考えています。

私が人生の新たなスタートを切ることができるようになったのも大学院への入学がきっかけだと思っています。自分の将来のために、人としての幅を広げるために、皆さんも是非大学院に入学して自らの可能性を求めてみてはいかがでしょうか。

Profile 井上 仁志

企業で人事系業務に20年以上従事し、人事、労務、人材育成などに携わる。大阪産業大学では、「人的資源管理論」、「キャリアデザイン論」を担当すると共に2016年4月よりキャリアセンター長として学生の就職支援業務にも従事している。